

# 4年 総合的学習「平野の人とステキに出会いましょう」

## 1. 4年の総合的学習の目標及び内容

<p>(目標)</p> <p>自分たちから積極的に関わろうとしなければ日常生活で関わることのない方々と交流することで、相手の立場に立つことの大切さを感じるとともに、それらの活動の中から様々なことに気づき、その気づきをもとにして自分自身の思考を深め、成長へとつなげることができる。また、交流の仕方や活動の展開について探究的に学習を進めることで、学びを創り続ける子どもを育成する。</p>
--

(内容)

導入では、連携を活用し、附幼や附特支への訪問やレクチャーを活用や、遠足でのエイジレスセンター体験などを入れる。最大の特色は、いろいろな立場の人々との年間3回程度の交流会である。そのため準備として、調べ学習・交流会の持ち方の工夫・交流会の見直しの判断が重要である。また、その様子をいかにして発表会で伝えるかも重要で、デジタルカメラの画像はもちろん、ビデオカメラの映像も活用できるようにした。グループ編成の際は、いろいろな立場の人々と出会える施設ごとに大グループ(附幼・附特支・ニコニコセンター)に分けながら、4人前後の小グループに編成する。交流場所は訪問先で、発表場所は校内とする。(発表会に訪問先の方を招待することも望ましい。)

次に成長について、まず、規準設定セッションで、「つきたい力」ワークシートを活用し、自分の「つきたい力」を4個程度設定する。グループ内で互いの「つきたい力」を相談する。つまり、規準設定セッション・中間評価セッション・最終評価セッションの3段階を確実に体験する。家庭で作成したものを保護者の方にみてもらいアドバイスをうける。

とにかく、「相手と楽しむ」「相手のよさが分かる」「また会いたい」と感じさせたい。3年生では年間を前期と後期に分けたが、4年生では年間通しての活動となる。ただし、1学期に1回目の訪問と中間評価・2学期に2回目の訪問と最終評価を行い、3学期の3回目の訪問は、総合の時間は確保しつつ、子ども主体の企画・実行を心がけたい。

## 2. 4年の総合的学習の指導計画の作成と内容の取扱い(70時間)

(例) 平野のステキな人々と会いましょう

学習内容	人と関わり学ぶ活動(支援)	個の考える力の変容(評価)
◎ 実感を伴う導入 ・施設訪問 ・出前授業等	・いろいろな立場(高齢者・障がい者・幼児など)が実感できる場を設定する。	・体験の感想を綴る。 ⇒ワークシートに記述 ⇒自由ノートに記述
◎ やってみたいことを決める ・グループで計画する。	・グループでやってみたいことの計画を交流する。	・課題を見つける。 ⇒ワークシートに記述
◎ 自己成長記録3/15作成 ※家庭学習	・家庭で作成し、保護者の方から書き方のアドバイスをもらう。	・活動当初を振り返る ⇒自己成長記録にまとめる。
◎ 規準設定セッション	・自分のつきたい力を決め、グループ内で相談する。	・つきたい力を決める。 ⇒ワークシートに記述
◎ 前半の活動 ・調べ学習 ・訪問準備	・交流先のことについて調べる。 ・相手のためになる交流の仕方を考え、その準備をする。	※特に、ワークシートを用いることはない。しかし、総合のある日は、自由ノートに総合のことを書

・第1回訪問 ・訪問を振り返る ・中間発表準備 ・リハーサル (学年内相互発表会も開く。)	・許可が出ればデジタルビデオカメラを使って交流を撮影する。 ・発表の仕方の工夫を話し合う。 ・発表準備の分担や発表場面の分担をする。	くように助言するとよい。 ・考えたことを表現する。 ⇒交流用の資料作り ⇒発表用の資料作り
◎ 中間発表会 ※訪問先の方を招待することも望ましい。	・上の学年(5年生)に前半の活動の内容を(映像も使って)伝え、アドバイスをもらう。	・考えてきたことを表現する。 ⇒ワークシート
◎ 自己成長記録8/15作成 ※家庭学習	・家庭で作成し、保護者の方から書き方のアドバイスをもらう。	・活動途中を振り返る ⇒自己成長記録にまとめる。
◎ 中間評価セッション	・同じグループの友だちと振り返り、第2回訪問に向けての見通しや「つきたい力」の相談をする。	・映像を通して訪問の改善や「つきたい力」の伸びを判断する。 ⇒自己成長記録に記述
◎ 後半の活動 ・活動や訪問の見直し ・訪問準備 ・第2回訪問 ・訪問を振り返る ・最終発表準備 ・リハーサル (学年内相互発表会も開く。)	・グループ内で活動の見直しを共有し、相手と共に楽しむことができる交流の仕方を考え、その準備をする。 ・許可が出ればデジタルビデオカメラを使って交流を撮影する。 ・グループ内で映像を使うなど発表の仕方を工夫する。	※特に、ワークシートを用いることはない。しかし、総合のある日は、自由ノートに総合のことを書くように助言するとよい。 ・考えたことを表現する。 ⇒交流用の資料作り ⇒発表用の資料作り
◎ 最終発表会 ※訪問先の方を招待することも望ましい。	・下の学年(3年生)と交流相手に活動と成長を伝え、アドバイスをもらう。(パワーアップカード)	・考えてきたことを伝える。 ⇒ワークシート
◎ 自己成長記録14/15作成 ※家庭学習	・家庭で保護者の方と作成する。	・活動全体を振り返る ⇒自己成長記録にまとめる。
◎ 最終評価セッション	・同じグループの友だちと振り返り、活動や成長(つきたい力)の伸びを実感する。	・映像を通して交流の成果と成長の伸びを判断し達成感にひたる。 ⇒自己成長記録に記述
◎ お別れ交流会(3学期) ・計画⇒準備⇒交流⇒感想	・3学期に自主的に交流会を企画・実行する。	・1年間を振り返る。 ⇒レポートやスピーチ

## 4. お年寄りの方々と交流(目標)

1の(目標)にもとづいて、様々な立場の方々の交流相手の一つとして、お年寄りの方々と交流を行う。4年生全体(105名)が3チーム(1チーム児童35名)に分かれて、交流を進める。

交流の仕方としては、下記のようないくつかのパターンが想定される。

(1) 児童がお年寄りのいらっしゃる施設等に行かせていただき、お年寄りと児童35名が多目的ルームのような広い場所で、昔遊びや児童が考えた方法で交流を行う。
(2) 児童35名が2~3グループに分かれて、施設等にそれぞれ別日の設定を行かせていただき、交流を行う。交流方法は(1)やその他少人数でも可能な交流を行う。
(3) お年寄りの方々に附属平野小学校に来ていただき、(1)のような交流活動を行う。 ※お年寄りのお話をじっくり聞いたり、児童が学んだことをお年寄りの方々に聞いていただくなどの交流の仕方も考えられる。
(4) にこにこセンターでの手話サークルの方々と交流(児童15名)と同時間帯に、別室で児童(20名)がお年寄りの方々と交流を行う。